

(1) 法話概略【岩手日報『声』の投稿を拝読して】

昨年の岩手日報『声』のコーナーに掲載された投稿文ですが、ほっこりとして考えさせられる内容でしたので、ここでご紹介致します。

「介護士の彼女に考え方を学ぶ」（盛岡市・会社員28歳）

『おばあちゃんってかわいいよね。』

これは、介護士の彼女が僕に言った一言です。

ある道の駅で、彼女と2人でソフトクリームを食べようと並んだレジでの出来事です。前に並んでいたおばあちゃん2人組が、ソフトクリームを選ぶのに時間がかかっていました。後ろには、私たち以外のお客さんもいます。

「早くしてほしい…。」…内心、そんな気持ちでした。

私たちが頼み終え、席に着いた瞬間、彼女が私に、

『おばあちゃんってかわいいよね。』

と言ってきました。同じ場所において、同じ事を体験していたのに、おばあちゃんに“イライラ”していた自分と、“かわいい”と感じていた彼女。自分の考え方を改めるいい機会だったと思います。

介護士という仕事は、「今、私たちが幸せに暮らせるのは、今のお年寄りが一生懸命働いて豊かな日本をつくったから。そんな偉大な方たちを介護できる最高の仕事」だと感じます。

私の実家には祖父と祖母が暮らしていますが、感謝を忘れずに生きていきたいと思いました。

『ありがとうね。』…そんな言葉を利用者さんから言われた時が、介護士をやってよかった、という彼女は、これからも介護士を続けていくようです。



このような投稿でありました。

介護の世界のすばらしさやお年寄りたちの恩恵を受けて今があるということを素直に伝えてくれるステキな文章ですね。私はもう一点、注目したい箇所がありまして、「同じ場所において、同じ事を体験していたのに、おばあちゃんに“イライラ”していた自分と、“かわいい”と感じていた彼女。自分の考え方を改めるいい機会だったと思います。」という所です。

今日のこの朝礼の場でこのお話を聴いて、皆さんもどのように感じて、どのような点が印象に残ったかは個々に違うと思います。その違いはそれでいい事です。大事にしたいのは、自分の感じたもの…なぜ、今日そう感じたのだろうか？と振り返ること。人の感じ方や心は「一人十色」だから、その時その時の変化する自分の感じ方を丁寧に振り返る時間、日常のどこかで数分でも持てたらいいなあ…そう願い、この朝礼法話の場を皆さんとのその時間に充てられたと考えたところでした。

(2) 職員について

この3月末、介護のMさんがお予様の進路に伴い退職となります。長く、光寿苑の介護を支えて頂きました。後2カ月、ご一緒できるので、お互い感謝の気持ちを表す事のできる残された時間を楽しみながら大切に過ごして参りましょう。

【(1)(2) = 光寿会理事長】